

内容（初め）

【第一段落】

◇話題の提示

- ・ありの行列は、ありの巣からえさのある所まで続く。
- ・ありはものがよく見えない。

◇問題の提示（問いの段落）

- ・なぜ、ありの行列ができるのか

○要約

ありの行列は、ありの巣からえさのある所まで続いている。ありはものがよく見えないがなぜ行列ができるのか。



内容（中）

【第二段落】

◇ウイルソンという学者

- ・ 次のような実験をする。
- ・ ありの様子をかんさつ。

○要約

ウイルソンという学者が次のような実験をして、ありの様子を観察。



内容（中）

【第三段落】

◇実験①

- ・ ありの巣から少しはなれた所に、ひとつまみのさとうをおく。

◇観察

- ・ えさをさがすために、外に出ていた一ぴきはたらきありが、さとうを見つけた。
- ・ やがて、巣に帰り、巣の中からたくさんのはたらきありが出てきて、列を作りさとうの所へ。

◇ふしぎなこと

- ・ 巣に帰るときに通った道すじから外れていない。

○要約

列を作ってさとうの所まで行ったはたらきありは、はじめのありが巣に帰った道すじから外れていない。



内容（中）

【第四段落】

◇実験②

・ 大きな道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎった。

◇観察

・ 石の所でみだれて、ちりじりになる。
・ 一ぴきのありが、石の向こうがわに道のつづきを見つけた。そのうち、だんだんとありの行列ができ目的地に着く
・ さとうのつぶをもつて巣に帰るときも行列の道すじはかわらない。

○要約

道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎったが、石の向こうがわに道のつづきを見つけ、巣に帰るときも、ありの行列の道すじはかわらない。

内容（中）

【第五段落】

◇観察の結果

- ・はたらきありが、地面に何か道しるべになるものをつけておくのではないかと考えた。

○要約

はたらきありが、地面に道しるべになるものをつけておくのではないか



内容（中）

【第六段落】

◇研究

- ・はたらきありの体の仕組みを細かに研究

◇研究結果

- ・おしりのところから、とくべつなえきを出す。
- ・においのある、じょうはつしやすいえき。

○要約

はたらきありの体を細かに研究した結果、おしりのところからとくべつのえきを出し、それは、においある、じょうはつしやすいえきだ。



内容（中）

【第七段落】

◇研究の成果

- ・ありの行列ができるわけを知ることができた。

○要約

研究から、ありの行列のできるわけを知ることができた。

内容（中）

【第八段落】

◇ありの行列ができるわけ

- ・えさを見つけると、地面にえきをつけながら帰る。
- ・他のありたちは、おいにそって歩く。
- ・巣に帰るときも、地面にえきをつけながら歩く。

○要約

はたらきありは、えさを見つけると、地面にえきをつけながら歩く。

内容（終わり）

【第九段落】（答えの段落）

◇研究の結果（まとめ）

- ・においをたどって、えさの所へ行ったり、巣に帰ったりする。

○要約

においをたどって、えさの所へ行ったり、に巣に帰ったりするので、ありの行列ができる。

